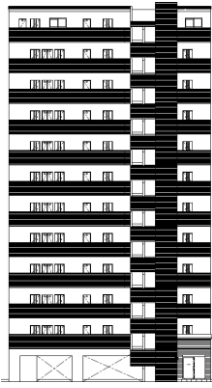


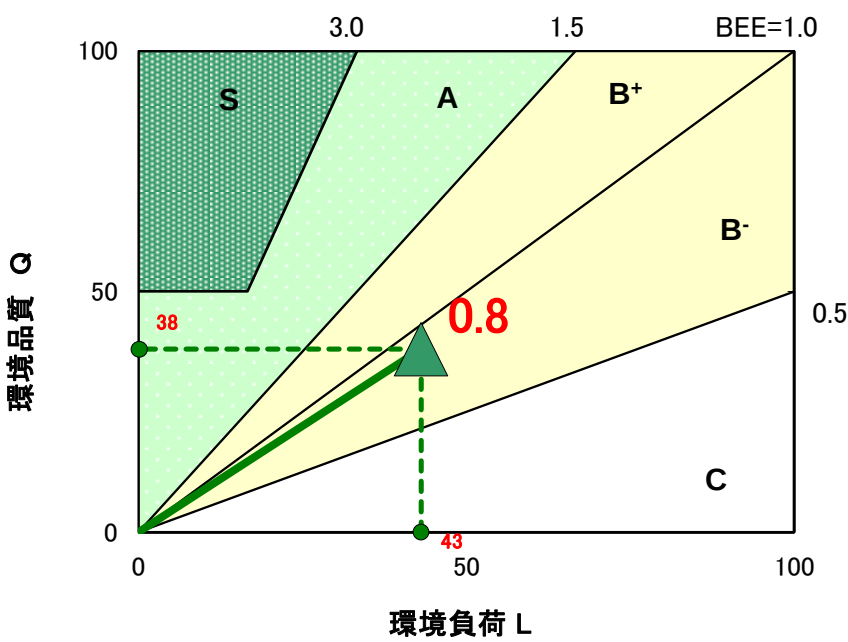
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)魚屋町クレールマンション 新築	階数	地上12F		
建設地	熊本市中央区魚屋町3丁目1-1、呉服町	構造	RC造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2018年11月13日		
敷地面積	625 m ²	作成者	上村 絢茄		
建築面積	235 m ²	確認日	2018年11月14日		
延床面積	2,154 m ²	確認者	伊東 正太郎		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)





BEE = 0.8

BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

89%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

72

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

74.7

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点

65.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

評価点

70.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

74.2

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

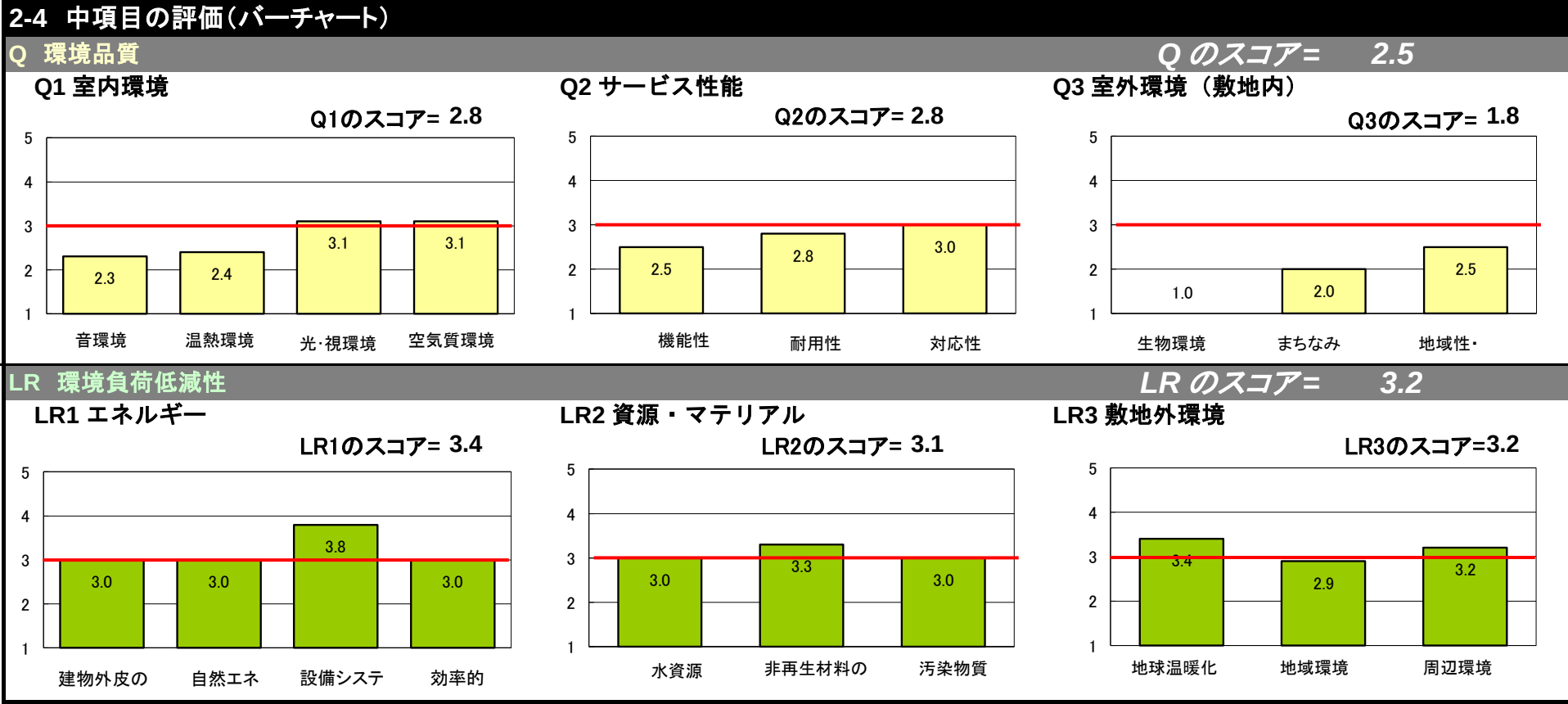
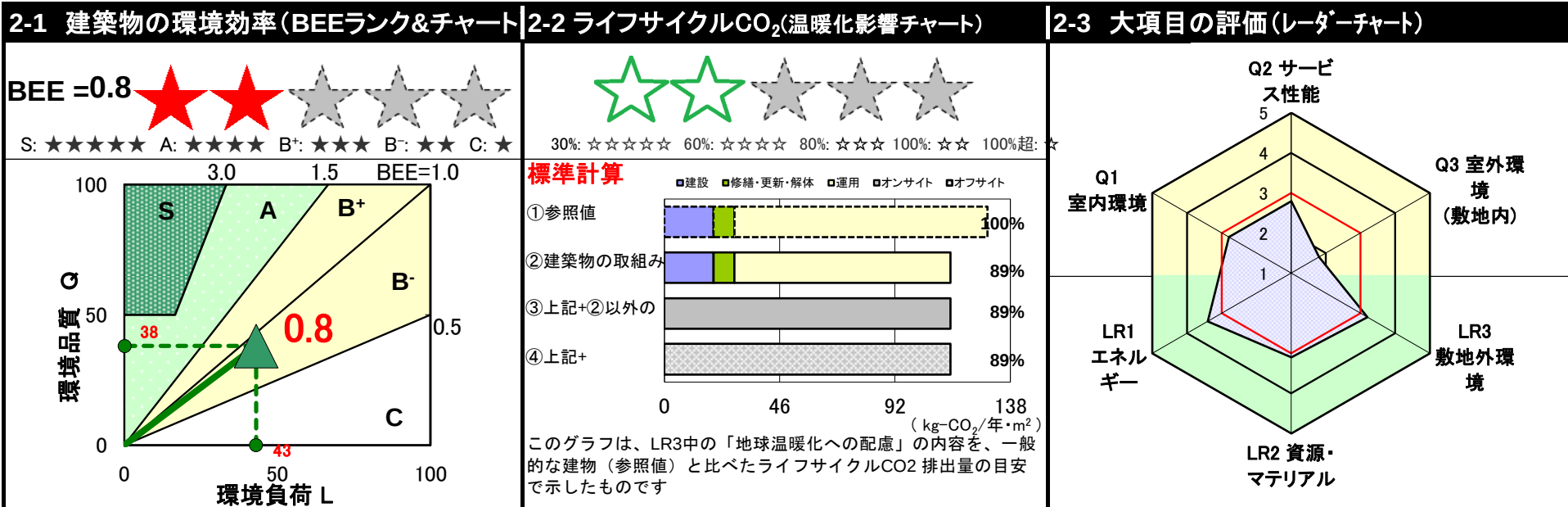
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)魚屋町クレールマンション	階数	地上12F
建設地	熊本市中央区魚屋町3丁目1-1、呉	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2018年11月13日
敷地面積	625 m ²	作成者	上村 絢茄
建築面積	235 m ²	確認日	2018年11月14日
延床面積	2,154 m ²	確認者	伊東 正太郎



CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・建築物を中高層(12F)にし、廻りの空間をできるだけ確保するように努めた

Q1 室内環境

- ・窓を大きくとり採光を効率よく取れるようにした

Q2 サービス性能

- ・将来の更新を想定し、全室ビニルクロスを採用

Q3 室外環境（敷地内）

- ・外壁材(タイル)の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る

LR1 エネルギー

- ・日射遮蔽性を図り、断熱性能を高めるよう、テラス(ベランダ)の奥行を広く計画した

LR2 資源・マテリアル

- ・限りある資源を有効に利用する。ハロン消化剤を使用しない

LR3 敷地外環境

- ・ゴミの散乱を防ぐよう扉付の既製品を採用した

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)魚屋町クレールマンション 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		72
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				74.7	0.40	29.88
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)魚屋町クレールマンション 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄						全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境					0.40		-	2.8
1 音環境				2.0	0.15	2.5	1.00	2.3
1.1 室内騒音レベル		(共用部)エントランス:50dB(A) (住居部)住戸:40dB(A)		3.0	0.50	4.0	0.50	
1.2 遮音				1.0	0.50	1.0	0.50	
1		開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30	
2		界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				1.0	0.35	3.0	1.00	2.4
2.1 室温制御				1.0	0.50	3.0	0.50	
1		室温		1.0	0.63	3.0	0.63	
2		外皮性能		1.0	0.38	3.0	0.38	
3		ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.0	0.25	3.1	1.00	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	2.5	0.30	
1		昼光率		5.0	0.60	2.0	0.50	
2		方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3		昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	
1		昼光制御		2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.0	0.25	3.2	1.00	3.1
4.1 発生源対策				3.0	0.60	3.0	0.63	
1		化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.6	0.38	
1		換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2		自然換気性能		-	-	5.0	0.33	
3		取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1		CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2		喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8
1 機能性				2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1		広さ・収納性		-	-	-	-	
2		高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3		バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1		広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2		リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3		内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1		維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2		維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1		耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2		免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.30	-	-	
1		躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-	
6		主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	
1		空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2		給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3		電気設備		3.0	0.20	-	-	
4		機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5		通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			階高:2.915m(基準階)	-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	-		-	4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	-		-	2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0		0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる		5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる		5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			LED照明の採用	3.8	0.50	-	-	3.8
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			壁・天井:木下地	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3			冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			高効率機器の採用	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3			交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	1.00	-	-	
2			振動	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1			風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	-	-	-	-	
3			日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害ガイドラインチェックリスト過半を満たす ・広告照明なし	5.0	0.70	-	-
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-